



温度が下がってきたら…過剰な給液に注意！



低日照・低温となる時期に給液が過剰になると、培地内が過湿となり気相が減少します。気相が減ると根が呼吸をするために必要な酸素が減ってしまうため根腐れの原因になります。根が腐り、根量が減ってしまうと、水や肥料を十分に吸うことができず草勢が低下します。給液管理のポイントをおさえて、培地内を過湿にしないように管理しましょう！

◆ 11月は日照時間が減少します

9月と11月を比べると、日の出・日の入ともに1時間変化しています。ココバッグ栽培では、給液開始は日の出時刻の1～2時間後、終了は日の入時刻の3～4時間前を基本としています。日の出・日の入時刻を目安に、給液開始、終了時刻を変更しましょう。

名古屋	日の出	日の入	日長
9月1日	5:24	18:20	約13時間
11月1日	6:13	16:58	約11時間

名古屋の日の出・日の入時刻と日長時間

◆ ハウス内環境も変化していきます

外気温の低下にともない、日中に開放していたサイド換気を閉めることも増えてきます。換気が少なくなるとハウス内の飽差は小さくなります。飽差が小さくなると蒸散量が減るため、給液量を減らす必要があります。ココバッグ栽培では排液量を毎日計測して、排液率が10～20%になるように給液量を調節しましょう。

名古屋	給液開始	給液終了
9月上旬	6:30～7:30頃	14:30～15:30頃
11月上旬	7:30～8:30頃	13:00～14:00頃

ココバッグ栽培の給液開始、終了時間の目安

◆ 過湿により根腐れを起こしてしまったら？

- ・ 給液間隔をあけたり、給液終了時刻を早めたりすることで培地内を乾かします。
 - ・ フレッシュサンソ液剤等の酸素供給剤をココバッグに灌注し、根へ酸素を供給します。
 - ・ CO₂施用を行って光合成量を増やします。
- 植物体温度が地上部<地下部となるように午後の温度を早めに下げると効果的です。

9月上旬	平均飽差 5.1g/m ³ (最小2.6～最大17.8g/m ³)
11月上旬	平均飽差 3.4g/m ³ (最小1.3～最大9.5g/m ³)

* 当社研究農場のハウス内環境データより